

「領域について」

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」
研究開発領域

平成28年度募集説明会

領域総括 大守 隆



多世代領域の概要

概要

地球環境や少子高齢化、財政の制約など成熟社会の重層的な問題を見据え、環境と調和しながら多世代・多様な人々のWell-beingが持続的に成長できる社会をデザインする。

環境だけ、経済だけ、自分の世代に関わる社会問題だけ、ではない！

目標

- ① 持続可能な都市・地域のデザイン提示
- ② 多世代共創を促す仕組みづくり
- ③ 統合的な成果の社会実装に向けたネットワーク構築

* 領域目標の達成に向けて、研究開発プロジェクトの推進および各種の取り組みを、領域総括の下で実施。

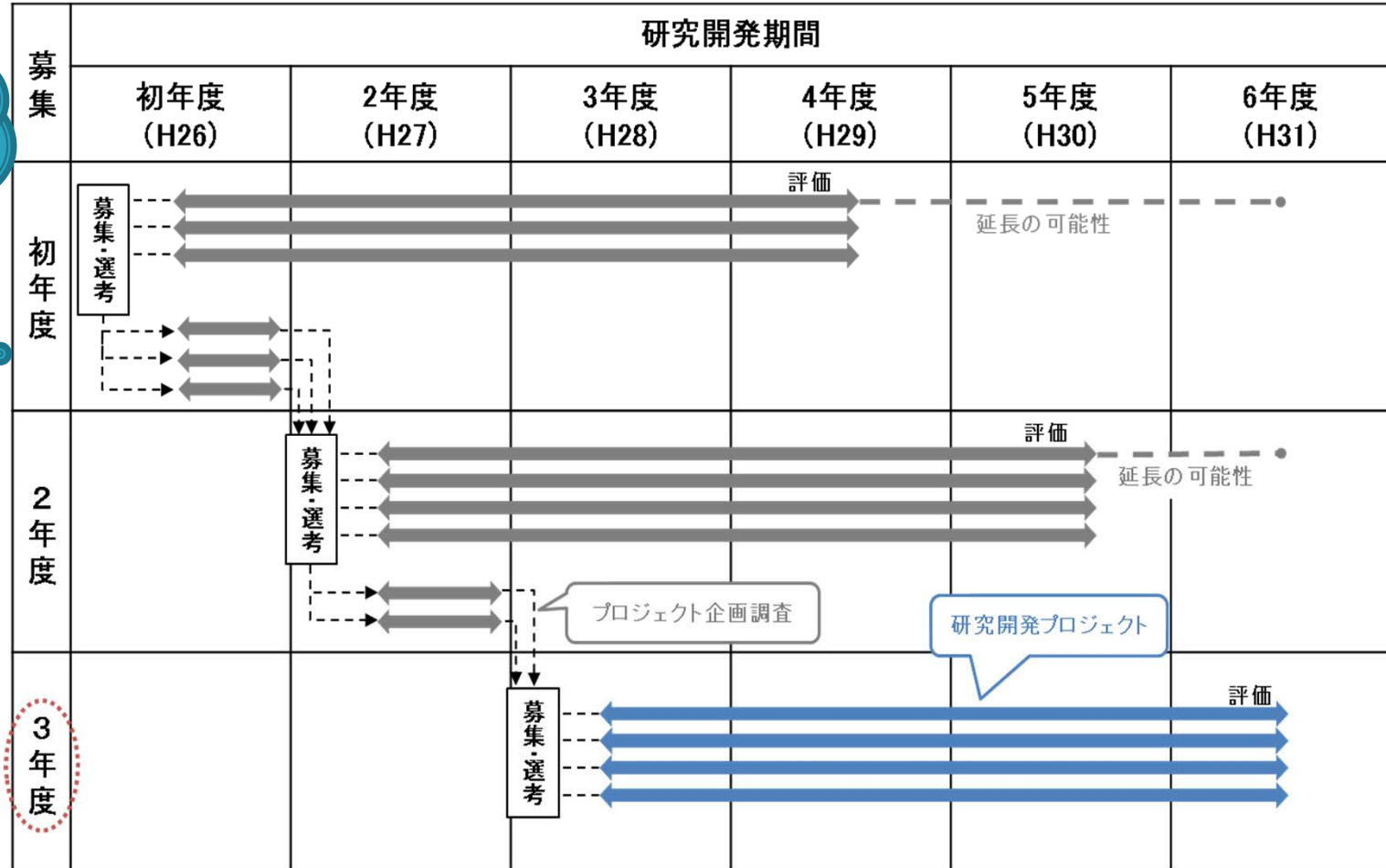
期間

平成26年度～平成31年度(予定)

研究開発の実施パターン

【イメージ】

公募で採択した8PJが
進行中！



領域としての成果創出に向けた活動



領域の背景

- ▶ 持続可能性という概念が提唱されて久しく、その重要性については多くの人々が認識している。
- ▶ にもかかわらず、持続可能な社会が実現しているとは言いがたい。例えば、江戸時代の日本では、ローカルなコミュニティの中で人々がつながり、自然と共生しながら、限られた各種資源の有効活用が徹底されていたが、その伝統の多くが失われてしまった。
- ▶ 持続可能性に関係の深い各分野（地球温暖化、生物多様性、財政赤字、所得格差、過疎化等）の諸指標の動きをみても、問題は深刻化している可能性。



背景：持続可能な社会が実現しない要因

▶ 根本的な要因：

- ▶ 人々が自分たちについて、先祖から子孫につながる歴史の流れの中で、「今」を託された世代であるという意識が薄れてきている可能性。

多世代の視点からの
アプローチが有効？

▶ 背景：

- ① 核家族化や都市化に伴って、多世代の交流の機会が減少
- ② 科学技術が、人々の助け合いの必要性を低下させるような方向性で発達したため、地域社会との関わりや地域への関心が薄れた



持続可能性と多世代共創

- ▶ 環境、社会、経済、文化の各面に関する持続可能性
 - 環境面：人間も含めた生態系の生息環境や枯渇性の資源…
 - 社会面：過度な地域の人口の減少や所得格差の拡大…
 - 経済面：過度な地域の雇用や所得の減少、財政赤字の累積…
 - 文化多様性：地域や国の伝統や文化の維持・発展…
- ▶ 2つの多世代：
 - 同じ時代に生きている多世代（子供、若者、子育て世代、高齢者）
 - 過去に生きていた世代や、これから生まれてくる世代との共創
- ▶ 共創とは、協力して創造すること。
 - 活動の対象となるだけでは共創とはいいがたい
 - 単なる交流でもないが、交流が基盤かもしれない



領域の課題

- ▶ 多世代共創の具体的可能性を探り、知見の総合的な整理・体系化を試みる。
- ▶ 以下の視点からPJを採択：
 - ✓ 地域(空間的な広がり)を念頭におきつつ、
 - ✓ 持続可能な社会を、
 - ✓ 多世代共創を通じて作るPJで、
 - ✓ 将来社会実装につながる可能性が大きいと考えられるもの
- ▶ PJ間の情報交換含め、領域として各PJを支援・育成。
- ▶ 同時に、領域全体としての成果をまとめる。



推進中の課題一覧 (8PJ)

研究開発プロジェクト

多世代参加型ストックマネジメント手法の普及を通じた
地方自治体での持続可能性の確保

倉阪 秀史

千葉大学
大学院人文社会科学研究科 教授

多世代共創による視覚障害者移動支援システムの開発

関 喜一

国立研究開発法人産業技術総合研究所
情報・人間工学領域 人間情報研究部門
主任研究員

未病に取り組む多世代共創コミュニティの形成と有効性検証

渡辺 賢治

慶應義塾大学
環境情報学部 教授

集合的幸福の概念構築と多世代共創の効果検証

内田 由紀子

京都大学
こころの未来研究センター 特定准教授

羊と共に多世代が地域の資源を活かす場の創生

金藤 克也

一般社団法人さとうみファーム
代表理事

分散型水管理を通じた、風かおり、緑かがやく、あまみず社会
の構築

島谷 幸宏

九州大学
大学院工学研究院 教授

ジェネラティビティで紡ぐ重層的な地域多世代共助システムの
開発

藤原 佳典

地方独立行政法人東京都健康長寿医療
センター 研究所 研究部長

未来の暮らし方を育む泉の創造

古川 柳蔵

東北大学
大学院環境科学研究科 准教授



領域全体としての成果の追求

- 領域としてのリサーチ・クエスチョンを設定しつつ答えを追求し、領域として何らかのとりまとめを行う。
- 領域の定義やリサーチ・クエスチョンは、各PJの成果も反映しつつ、随時、見直しをしながら進める。



領域としてのリサーチ・クエスチョン

(2016年4月現在)

- Q1. 持続可能な社会の実現にとって、どのような多世代的なアプローチが有効か？
どのような問題に何故有効なのか？

- Q2. 特に若い世代(子供、学生、若年単身者、子育て世代等)にとって、多世代共創的活動に参加するための動機にはどのようなものが考えられるか？

- Q3. 仮に多世代共創的活動の中で、持続可能な社会の実現にとって効果があるものがあるのに、一部の世代に十分な動機がないことが障壁となっている場合に、参加の制度化などに向けて、どのようなことが考えられるか？



領域としてのリサーチ・クエスチョン

(2016年4月現在)

- Q4. 自然科学系の新技術(情報技術を含む、潜在的技術も含む)は多世代共創のあり方にどのような影響があり、それが持続可能な社会の実現にとってどのような含意を持つのか？
- Q5. 多世代共創的活動は人々の意識にどのような変化をもたらすか？
そのような意識変化は持続可能な社会の実現にとってどのような含意があるか？



領域としてのリサーチ・クエスト

(2016年4月現在)

Q6. 社会実装を軌道に乗せるために、どのような戦略や配慮が有効か？ またマニュアル化などが可能か？

- ① 多世代共創が生まれるような仕組みはどのようなものか？ どう作り得るか？
- ② 担ぐ人の育成：多世代での推進役が必要と思われるが、それはどのように確保できるか？
- ③ 場：空間的な場の確保と同時に場の特性を維持、改善していくためにはどうしたら良いか？
 - ドライビングフォース：ファイナンスが大きな条件だが、それ以外にどのようなものが考えられるか？ また、ファイナンス上のネックにはどのようなものがあるか、どう乗り越え得るか？
- ④ 社会的認知の上げ方：熱心な賛同者、おとなしい理解者、無関心な人、反論をしてくる人、類似の活動をしている人、など様々な人がいる中で、どのように社会に浸透していくか？
- ⑤ 自治体との関係：分野によっては重要であるが、自治体には、公平性重視、縦割り、外部への警戒感などの特性があるが、一方で個人として応援の気持ちを持っている人もいます。こうした構造の中で、どう協力を取り付け社会実装につなげるか？



領域としてのリサーチ・クエスチョン

(2016年4月現在)

- Q7. 多世代共創の程度や多世代型ソーシャルキャピタルに関する指標にはどのようなものが考えられるか？
また、持続可能な社会の実現に寄与するという面での有効性を評価するための中間的な指標としてはどのようなものが考えられるか？



一般枠

- ▶ 平成28年度は従来型の研究開発PJを一般枠として設置


◇予算規模：1課題 数百万円～30百万円以下／年

◇期 間：原則として3年間

（平成28年10月～平成31年9月）

◇評価項目

- ① 領域のコンセプトを踏まえている： 多世代共創
- ② 領域のコンセプトを踏まえている： 持続可能な地域のデザイン
- ③ 研究開発として何を明らかにしようとしているかが明確である
- ④ プロジェクト終了後も何らかの形で活動や成果が社会に根着くことが期待できる：社会実装への展開
- ⑤ 提案を育む価値・可能性がある




求めたいテーマ(例示、一般枠)

例G-① 老朽化した集合住宅における 多世代共創の可能性に関する研究

高度経済成長を経て全国展開された集合住宅や分譲住宅などの高密度地域では、老朽化、高齢化、少子化に加えて貧困の問題も生じており、地方の過疎地域との共通性もみられるようになった。

このような現状を改善する上で多世代共創がどのように役立ち得るか、また、どのようにすれば有効な多世代共創を実現できるかを目指すような研究。



求めたいテーマ(例示、一般枠)

例G-② 多世代共創による公共施設マネジメントの改善

平成28年度までに、全ての自治体に公会計に発生主義・複式簿記が導入されることで、これまでの「資産」と考えてきたインフラ・公共施設が、将来にわたる維持管理・更新費用を想定すると「負債」となる可能性がある。

特に、基礎自治体におけるインフラ・公共施設マネジメントのあり方が問われているが、多世代共創によってこの問題を解決しようとする研究。

求めたいテーマ(例示、一般枠)

例G-③ 都市と農山漁村の交流を通じた 多世代共創の可能性と含意

近年、農林漁業や農山漁村の暮らしに興味を持つ若い世代が増え、地域おこし協力隊などを通じ、農山漁村にUIターンする若者が増えているが、まだまだ中山間地域の農林業や伝統的な漁業のノウハウや生活文化が引き継がれているとは言いがたく、全国各地で里山・里海の荒廃が進んでいる。

一方で都市部の若い世代の雇用不安は高まっている。
また、こうした中山間地域の問題と、食糧やエネルギー自給率の低い都市部の課題を都市農村交流や、多世代共創の手法で解決することはできないか、という問題意識に応える研究。

求めたいテーマ(例示、一般枠)

例G-④ 旧企業城下町の維持・再生における 多世代共創の可能性と含意

経済構造の変化に伴って地域を支えてきた大企業が廃業することも稀ではなくなってきた。

企業を中心とする経済循環や社会関係資本がなくなることは、地域社会を存続の危機に陥れかねない。

こうした状況を多世代共創の手法を活用して打開することはできないか、という研究。

求めたいテーマ(例示、一般枠)

例G-⑤ 芸術を通じた多世代共創の可能性と含意

芸術の中には音楽や美術のように世代や人種を超えたコミュニケーション媒体となっている一方で、民族によって好みが異なる傾向の見られるものもある。

日本では世界中の芸術が親しまれているが、世代間の分断もある程度みられる。

こうした普遍性と多様性を、多世代共創の求心力として生かすことが可能ではないか、そしてそのことが、持続可能性に関する諸問題の解決に貢献し得るのではないかという問題意識に基づく研究。

日本古来の、書道、茶道、吟道などに関する提案も歓迎。

求めたいテーマ(例示、一般枠)

例Gー⑥ Well-beingの成長を促す産業の創出

環境と調和しながら、多世代・多様な人々の生きがいや心の豊かさが持続的に成長していくためには、利便性や物質的な豊かさを追求した従来の製品やサービスとは違った、新しい産業が創出されることも重要である。

地域の様々な資源や技術をも活用しながら多世代・多様な人々が共創するためのプラットフォームの構築や人材育成、多世代共創によるレトロハイブリットな製品開発などを通して、Well-beingの成長を促す産業創出の可能性を追求する研究。

*レトロハイブリッド：懐かしさを感じさせるが機能はハイテクで強化されているもの、レトロとハイテクのハイブリッド



一般枠に加えて俯瞰・横断枠を募集

- ▶ 従来型の一般枠に加えて俯瞰・横断枠を設定
 - 特定の地域をフィールドとしない代わりに、幅広い視野をもっていたり
多世代交流・共創の経験の効果などの実証分析を目指すもの
 - 社会実装を必ずしも求めないが制度改革などへの含意を持つもの
 - 領域全体のとりまとめに役立つもの



俯瞰・横断枠

◇予算規模：1課題 上限1000万円

◇期間：1年間（平成28年10月～平成29年9月）

※ 終了時に評価を実施し、領域マネジメントグループと共に領域成果を取り纏める上で継続が有効と判断したプロジェクトについては、最大2年延長することがある。

◇評価項目

- ① 領域の成果創出・目標達成に貢献しうるテーマ設定になっている
あるいは、研究開発プロジェクトの成果の統合が期待できる
- ② 領域のコンセプトを踏まえている： 多世代共創
- ③ 領域のコンセプトを踏まえている： 持続可能な地域のデザイン
- ④ 研究開発として何を明らかにしようとしているかが明確である
- ⑤ 領域マネジメントグループとの対話・協働が期待できる

求めたいテーマ(例示、俯瞰・横断枠)

例C-① 多世代共創事例の調査・分析

持続可能な地域社会に結びつきそうな多世代共創事例を様々な分野で収集し、領域としてのリサーチ・クエスチョンの解を考える上で参考となる知見を創出する研究。

- ▶ 多世代共創が有効と思われる問題や、交流や共創をしやすい世代、成功・失敗要因等を分析する。
- ▶ プロジェクト成果の社会実装に向けて、様々な多世代共創事例のプロセスや戦略、要素を抽出・整理する。

求めたいテーマ（例示、俯瞰・横断枠）

例C－② 年齢差別の撤廃と多世代共創

欧米諸国では、年金支給年齢を引き上げる一方で定年を撤廃する動きや、採用において年齢・性別を聞かないことが広がっている。

しかし、日本では、いまだに年齢による差別が許容されている。その理由を解明するとともに、どのような変更が可能なのか、また変更した場合どのような多世代共創の可能性が開けるのか、

そしてそれは持続可能性に関する諸問題にどのように貢献するのかといった問題意識に応えようとする提案。



共に問題に取り組む提案を期待しています！

持続可能な社会の実現に向けて

今を生きる私たち(子どもから高齢者まで)が、

過去世代から何を学び、

未来世代に向けて、

どのような**新しい価値**を生み出し、

つないでいくのか